

第2回
博物館活動センター 教え乙!!

学芸員のおしごと

学芸員とは、美術館や科学館、博物館などで、専門的な資格を持つ資料の収集や研究に当たる職員のこと。
しかし、業務はそれだけにとどまらず、実にさまざまです。このコーナーでは、札幌で活躍する学芸員さんに、自らの仕事について紹介してもらいます。



博物館活動センターとは

札幌の自然や環境の成り立ちを分かりやすく解説しているほか、昆虫や植物などの実物標本を展示。サッポロカイギュウの全身骨格復元標本も公開しています。

化石の発掘作業のほか、化石から復元されるカイギュウの模型作りなども行っています。模型は、紙粘土やウレタンを使い、すべて手作業で作っているんですよ。



2

クジラなど、さまざまな動物の全身骨格を保存

発見された一部分の化石から、全身の骨格を類推し、筋肉の付き方を考え、形や動きを推定します。そのために、進化の記録を残している、イルカやアザラシ、クジラなどの現存する動物の全身骨格を収集・保存し、研究に活用しています。

保存してある骨は、化石と比べたときに、形の特徴や進化の様子を調べることができる大切な資料なんです。



行ってみよう!
博物館活動センター

ロイトン 札幌		リンケージ プラザ	植物園	4
石山 通	北1条通	STV		
	博物館 活動センター			
西11丁目駅	大通公園	至大通駅→		
		地下鉄東西線		

今月の学芸員

ふる さわ ひとし
古沢 仁さん

大学で地質学を学び、その後、滝川市、沼田町で海牛の発掘調査を担当した海牛研究の専門家。平成10年に札幌市に採用され、サッポロカイギュウの調査も担当する。



HITOSHI FURUSAWA



MAMI YAMAZAKI

今月の学芸員

やま ざき まみ
山崎 真実さん

大学・大学院で植物分類学を学び、平成13年に札幌市に採用される。市内の水生植物の調査も担当する。

サッポロカイギュウを発掘調査・研究

平成15年に南区小金湯で発見された、未確認の化石を発掘しました。調査の結果、ジュゴンに似た、体長7メートルに及ぶ大型の海牛であり、およそ820万年前に生息していたことが判明。この時代に大型海牛が生息していたことを、世界で初めて解明しました。



調査中は、ハチに襲われたり、沼の深みにはまつたりすることもあり大変ですが、時には希少な植物に出会うこともあります。体力に自信があることも学芸員の条件ですよ。

札幌の植物を調査

札幌に生えている植物をすべて調査・収集し、保存する作業を進めています。今までに、モエレ沼や旧豊平川の水草の調査を行いました。調査は、胸まである胴長靴を履き、自分の背丈より高いやぶの中をかき分けて進むこともあります。

3

所在地 中央区北1西9リンケージプラザ5階 電話番号 200-5002
開館時間 午前10時～午後5時 休館日 日・月曜、祝・休日
ホームページ www.city.sapporo.jp/museum